

令和2年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	20A401	領域略称名	深奥質感
研究領域名	実世界の奥深い質感情報の分析と生成		
領域代表者名 (所属等)	西田 眞也 (京都大学・情報学研究科・教授)		

(応募領域の研究概要)

質感は事物や事象の性質や状態を推定する人間の能力であり、リアリティの認識にも密接に関わる。情報科学及び神経科学にとっての重要な研究テーマであり、産業界からの注目も高い。質感の本質的理解には、感覚入力を質感言語ラベルに結び付けるような表層的な質感情報処理の背後にある、深奥質感と呼ぶべき処理階層を理解する必要がある。それは、価値、情動、身体内部の状態を反映し、未来の行動選択の基盤となるような外界モデルを、脳内に形成する過程である。本研究領域は、人間の深奥質感処理の機能を情報技術として実現するとともに、そのメカニズムを脳神経科学的に解明する。さらに人間にリアルな深奥質感を体験させる感覚情報の本質を理解し、革新的な質感生成・編集技術を開発し、質感科学をアートに接続する。

(審査結果の所見)

本研究領域は、精力的に進められた2つの新学術領域研究プロジェクトによって、質感学という研究領域として確立されつつあり、国際的な優位性がある一方、継続的なプロジェクトとして未解決問題を取り上げるだけでなく、これまでの方向を大きく変革させる研究展開が求められている。そのような方向性を示すキーワードである深奥質感は、表層的質感の奥深く潜んでいる、言語的な表現ができないような本質的質感を、多様な研究分野で取り上げるためには重要な概念であり、認知科学、芸術やデザインなどと結びつけた、学術の変革を導くような展開が期待される。一方で、その定義において計画研究ごとにブレが存在するので、より明確にした上で、研究を推進していくことが必要である。特に、アートから臨床まで網羅する研究項目 C01 で取り扱う質感の生成・編集は、それ以外の項目での定義と比べてかなり異質だと感じられるため、統一した目標に向かうように、有機的な連携が求められる。3研究項目それぞれの中の計画研究間の連携も、公募研究をうまく利用することなどによって、強化することが望まれる。